



4月の活動会の「誓願」

—歎異抄 第1-2条 3回目—

緑の美しさ、春節がやつてもおもした。私にひとしては一年で一番週¹のやつも時期であります。この時期にならうなんういふやうな場所へも

ひたり、²かく出かねとこつても、特異な場所でないかもよこのじか。緑

に身を包まれてゆくと、時の流れに身を任せられたるよつた場所であれば、³かく思つてゐるのじか。

時々、突然に思つては車で田かけ、ほじりて人にも車には田会わぬい山道を走り続けのじかがあります。途中見晴らしの良い場所でもあれば下界を見下ろしながら、思つて切り深呼吸をするのじか。ただしこれだけのじかなのです、私にひとしてはひととせな時間に思えてくるのです。自然の中にじかの身を置くと「心が洗われるよつた」と言つますが、確かにそんな気持つにわなるものじか。

「心が洗われる」を辞書で引いてみると、「心の汚れや、煩惱が清められ、すがすがしさ、快適感にならじ」とあります。私にひとしては心の汚れや煩惱が清められるかどつかはわからまセんが、よくよよいの言葉を幽みしめてみれば私たちの日常は心の汚れ、煩惱もみれで生きてゐるところじかが大前提になつてゐる葉です。

『歎異抄』には「よひかのじか、みなむつし、心⁴といたわ⁵じと、ま⁶じとあね⁷ひとなむに、ただ念仏のみむかのじかのむじておなしみか」と、獨世を生きる私たちの姿が言つてあつたわ⁸じとあります。

私たちは大自然の、あるがままの偽りのない世界に包まれる⁹と、つて、田舎¹⁰の田舎が浮き彫りにされたいふねじかにじか。私の感じた幸せは、自然のあるがままの美しさに、安らぎと優しさと、そんな世界へのあいがれの心をただけたじかでしょ。

今回は第1-2条の第3回目の「おひか」の誓願ひなつました。

「の抄せ、往生(救われ)あむたぬじ、「お念¹¹」一つを信じのじかが大切なのか、それとも学問(經典や法華書)を信じのじかを信じるのじかが大切なのかを語ゆるの因縁ひなつてじます。

その教えは浅く奥じく、決してそれで助かるじせなつて。じ非難してしまつた。

それに対しても淨土門の人たちは「私たちのよつた何も知らなじ者でも、本願を信すればお助けにあむかくと説かれてしむの教えを信じておつまむから、あなたがたのよつた仏道修行の能力の優れた人から見れば、劣つてこむと思ふじも、私たちにひとしては最上のみ教えであります」と反論しました。わらじ「誓問を重んずるなひま、誓問あるじゆによつて、阿弥陀如来の本願は、善・惡・淨・穢(せん・お・じ・けい)を全く問題にしないのだとこつじとを学ぶじかが本門の意義ひなうのか」。しかも反論したのです。

あつて、歎異抄の第一條では「弥陀の本願には、惣・善惡のじゆを祓ひねれず、ただ信心を要とす。このゆゑは、罪惡深重・煩惱熾盛の衆生をたすかんがための願にまします。しかれば、本願を信じたじは、他の善も要にあらず、念仏にまやむべも善なきゆゑに。惡をもねむべからず、弥陀の本願をもまたぐゆせじの惡なれを除くじと「はや」とあつたよりに、聖人の仰せは明確であります、疑つ余地のないじとを改めて確認した抄とこつじになつたのです。



空と雲と、川と緑と

お寺サロン



—廣専寺にて—



4月24日(木)恒例のお寺サロンが開かれました。お天気も良くなじやすい気候となつたこの日、光受寺、廣専寺門徒さんたち19名が参加してくださりました。

光受寺若院からは、約10分前後の仏教小話があり、若い頃に読んだことのある五木寛之の『大河の一滴』を取り上げ、自分の人生を振り返りながら、これから的人生をどう生きたらよいのかを話してくねていました。

また、廣専寺の若院からは前回に引き続き『正信偈』の解説、「一切善惡凡夫人、難中之難無過斯」までを行つていただきました。弥陀の本願（一切衆生を救う）を信じるとの難しさを力説されました。

飛龍梅



現在では左の写真のように、新芽がじんじんと伸び始めています。主幹に近い枝にも新芽がふき出し、数年後には樹形が整えられる枝にもなつそつだと、期待を膨らませています。

4月20日現在 今、行つてゐる作業は、夏場の暑さに耐えられるようにと傷んだらぶる木の幹や枝に麻布を巻いています。また、完全に枯れてしまふ木の上部を少しずつ切り落とす作業も進めていいます。



いのちつながられるか、かすかな希望に思いを込めて。

春は自然界では多くの「このか」が誕生する時期です。

お寺ではツバメが巣作りに励み、メダカは大きくなりんだお腹に、いっぱいの卵を抱えています。すでにホティアオイに小さな卵を産み付けてもいます。2週間もすればあたらしく「このか」が誕生するかもしれません。

いのちの誕生ここにも



産み付けられた卵は増やすために、別の容器に入れます。

現在は昔、本堂で使つていた大きな火鉢に飼つていますが、水を替えないでも元気に育つています。

お知らせ

お寺サロン 5月15日(木)

一時半より 2時半まで

『親鸞聖人の「生涯』パート2

『正信偈』解説

光受寺学習会 5月17日(土)

『歎異抄』第1-3章

2時より3時半まで

ビデオ視聴あり。

今月の掲示板

われもひとも、
よしあことじつひとを
わかつしあえり。
歎異抄 後序より

私たちは「よしあし」の発想でのみ物事を判断してはいらないだろうか。「これは善」と決めつけた瞬間に「これは悪」という決めつけを生み出したことになる。その事実に頭かされた時、己の深い心の闇と、愚かさとが自覚されてくる。親鸞聖人自身も、この事実を深く自覚され、その勘しみを超えて「教えに出遭つていかれたのだ。